

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ 所在地：南巨摩郡富士川町鞆沢771-2

TEL：0556-22-8154 FAX：0556-22-8144

HPでカラー版が御覧いただけます。URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

★峡南地区子育て学習会 県立大学名誉教授 池田政子先生★

山梨県立大学名誉教授、池田政子先生を講師としてお迎えし、峡南地区子育て学習会を開催しました。峡南地域は南北に広いため、より多くの皆様に参加していただけるよう、南ブロック（2月4日、身延町総合文化会館）北ブロック（2月12日、市川大門町民会館）に分けて行いました。テーマは、「自分を大切に作る気持ちを育てるために」です。子どもの自尊感情を育てるためには、大人はどのような接し方をすればよいか、学習を進めていきました。



山梨県の小学校4年生と中学校2年生を対象とした調査回答（2011年）によると、「自分のことが好きである」小学生は20%・中学生は10%、「自分は人から必要とされていない」小学生は41%・中学生は51%でした。自分が好きではない、まわりから必要とされていない、という小中学生の多いことが山梨の今の現状です。自分の子どもが、「誰からも必要とされない人間だと思っている」としたら・・・親としては切ないし悲しいものです。同じ小中学生に調査した「まわりの大人に望むこと」の回答では、「友だちやきょうだいと比べないでほしい」「話をちゃんと聞いてほしい」「約束を守ってほしい」が上位を占めています。子どもが自分の存在を価値あるものとして自ら認め、まわりから必要とされていると思えるよう、大人たちは子どもたちに寄り添い、適切に対応していくことが求められています。

自尊感情を高めるために必要なことを、池田先生はいくつか話されました。一つ目は、子どもの自己形成期（自分で自分をつくりはじめる時期）は、2～4歳の時期と思春期であり、その頃の「自分づくり」と「親のまなざし」がとても大きな意味をもつということです。子どもは大人のくれる言葉で自分のイメージをつくると言われ、大人の期待したとおりに子どもは育っていきます。「だめな子ね」と言えば、子どもは言われたとおりのだめな子だと思い自分をつくっていくし、大人も期待しないのであまり働きかけをしません。「えらい子ね」と伝えると、子どもは、褒めてもらったことがうれしくてまた次も頑張ろうとするし、大人も期待をこめてさらに働きかけをするようになります。どんな言動もプラスの見方をしてあげる、短所も視点を変えて長所（よさ）と見てあげるなど、子どもの自尊感情を高めることを意識した接し方を心がけていくことが大事です。二つ目は、子どもの心を聴き自分の気持ちも伝えるコミュニケーションについてです。まずは、聴き上手になることです。繰り返し・言い換えなどを用いて傾聴しながら、「あなたがそう思っていることは伝わりました」という姿勢を見せることが大事になります。キャッチボールのように、相手を意識した会話に心がけ、安心感をもたせます。次は、伝え上手になることです。「あなたメッセージ」ではなく「私メッセージ」を相手に届けるようにします。例えば、「おつかいを頼んだのに、もういい」では、子どもは非難されたという感情しか残りません。「おいしいカレーを作ったのにかたがたにルーが無くて残念だなあ」という自分の気持ちを伝える「私メッセージ」では、子どもは話し手の気持ちを理解しやすく、どうすればよかったのか考えやすくなります。このような、相手の気持ちを大切にする聴き方や伝え方が、子どもの自尊感情を高めていくのです。80名近い参加者の皆様より「参考になった」という回答をいただきました。充実した学習会にすることができました。多くの皆様の御協力に感謝しております。

「生涯ボランティアバンク」の「まなびネット」への移行について

この度、「生涯学習ボランティアバンク」による指導者紹介事業は、生涯学習の一層の振興のため、本年度をもって県企画県民部生涯学習文化課の所管する「やまなしまなびネットワークシステム（以下「まなびネット」）」に移行し、問い合わせ先も生涯学習文化課とすることになりました。つきましては、「生涯学習ボランティアバンク」を御利用の皆様方におかれましては、平成27年度以降、引き続き「まなびネット『できる人材情報』」（生涯学習文化課所管）の御利用をお願いいたします。

「やまなしまなびネット」ホームページ <http://www.manabi.pref.yamanashi.jp/>
生涯学習文化課生涯学習企画担当 (TEL) 055-223-1319 (FAX) 055-223-1322

☆☆連載特集『峡南地域の食材』No. 9

身延高校生と食改さんとのコラボ 調理実習（郷土料理学習会）

身延高校では、12月17日（水）に2年次ライフサイエンスA履修生（2年次生23名）が、峡南地区の食生活改善推進委員さん（通称：食改さん）の指導のもと、郷土料理の調理実習を行いました。

目的は、①地域の方々から直接食に関わる生活文化の背景について伺い、地域の食材や食文化に関する理解を深め、食と環境との関わりに関心をもつ、②地域の農産物を使用した調理実習を行うことで、食が心を豊かにする力を実感し、食材やそれを作ってくれる人への感謝の気持ちを持ち、食文化の継承の意欲を高める、です。

コラボ6年目となる今年のメニューは、身延高校家庭科担当の小池えみ先生と遠藤友佳子先生が、峡南保健所管理栄養士の藤原由紀子さん、食改さんと検討した「大塚にんじん飯」「大豆入りチーズハンバーグ」「ほうれん草と湯葉のすまし汁」の3品です。



大塚にんじん・幻のにんじんと言われ期間限定で市場に出回ります。

曙大豆・・・今では、曙地区の2件の農家しか種がとれないそうです。

実が大きく、とても甘い大豆です。

湯葉・・・歴史ある身延山の豆腐料理から発展したそうです。

すまし汁・・・富士川町産で、すまし汁の香り出しと味だしに使用されました。

調理後、生徒の青嶋さんは、「家の料理はいつもこってりで油が多いけれど、今日の大豆入りチーズハンバーグはオープンで焼くだけです。薄くて、しかもとてもおいしいので、家の人に伝えたいし、自分でも作ってみたいと思いました」と笑顔で話してくれました。幼少期からの食の大切さを伝え、減塩運動を推進している食改さんにとって、嬉しい一言でした。食改さんからも身延高校生に対して、「子ども達が礼儀正しくコピッとしている」と、お褒めの言葉もありました。当初の目的を十分達成でき、和気藹々と、心がほかほかした素敵な調理実習交流会になりました。



ハンバーグをお気に入りの形に！



オープンを開き焼き具合の確認



待ちに待った試食タイム

峡南高校生を講師に純錫（じゅんすず）小皿・キーホルダー製作

2月13日（金）、14日（土）の両日、峡南高校クラフト科2年25名の生徒の皆さんは、「錫を使った小皿作り」、「錫を使ったキーホルダー作り」の講師の仕事を担当しました。

13日（金）は、ことぶき勸学院1年生教室22名の受講生に、錫を使って小皿の作り方を教えました。勸学院生にとって、「若者との交流」は、とても楽しみにしている講座の一つです。生徒と勸学院生とが力を合わせ仲良く作業を行い、見事にオリジナル小皿を完成させました。勸学院生からは、「一緒にいるだけでも楽しい気分になります」「三度目の挑戦で、錫の流し込みに成功したときは、大きな拍手をもらいました。照れたけれどとても嬉しかった」等、たくさんの喜びの声が届きました。

14日（土）、峡南高校の生徒の皆さんは、担当の五十嵐智則先生達と共に、今度は金山博物館に出向き、「純錫小皿・純錫キーホルダー作り体験教室」の講師として、参加しました。峡南高校生と金山博物館との金属加工のコラボイベントは、6年目を迎え、インターンシップ研修や課外授業等の一環としても行われている取組です。実は、12月にも「錫キーホルダー作り体験教室」を行いました。その体験教室が大好評だったということもあって、今回も引き続き、第2弾として開催することになりました。2日間とも、受講する方々に終始笑顔で接し、懇切丁寧に指導する峡南高校生の眼差しがとても印象的でした。会場は、優しく温かい空気ですべて満ち溢れていました。



熱心に指導する峡南高校生



錫のキーホルダー



錫の小皿



優しく丁寧に指導！

「あの頃」 山内惟治 先生

山内惟治先生は、48年間という長きにわたり高校教育の発展にご尽力され、優れた教育手腕を發揮し、教育界をリードしてきました。ご自身の計り知れない挑戦や体験の中での確固たる「**教育信念**」は、「どんな生徒も、それぞれ輝く宝が秘められている。それを見出し、磨いてやるのが教師の使命である。尽きない愛情と燃える情熱、執拗なまでの工夫研究がそれを可能にする」です。そんな体験を回想して頂き「**あの頃**」と題しご執筆をいただきました。

山内惟治 先生のプロフィール

山内惟治先生は、昭和38年峡南高校に着任以来、山梨県教育委員会、甲府工業高校教頭、峡南高校校長、身延山高校校長、同校顧問等、48年間の教育活動、さらには、身延町社会福祉協議会会長を歴任され、それぞれの分野ですばらしい実績を挙げられました。中でも、山内先生ご自身が率いる峡南高校登山部を、4度の全国制覇に、そして学業においては、全国工業高校標準テスト（建築）で峡南高校建築科を再度にわたる全国最高点の成果へと導きました。これらの快挙は、生徒達に大きな自信と誇りを抱かせました。



昭和38年、それは私の教職人生スタートの年であり、峡南高校との初めての出会いの年でもあった。それ以来、過ぎ去った52年間は、遙か遠い夢の中に漂い、昨日のこのようでもある。

かつて峡南高校の校舎は、現在の久那土中学校の位置に在り、狭い敷地に幾棟かの木造校舎が、窮屈そうに肩を寄せ合っていた。運動場は、久那土小学校と共有していた第一運動場と、県道と三沢川で隔てられていた第二運動場で成っていた。二つ合わせても、県内はもちろん、全国においても希に見る貧弱さであった。

第一運動場は、小学生と本校生が入り乱れ、第二運動場では、外野フライは全て川にはまり込み、流れる球を追いかけて確保するのも外野手の守備範囲であった。後の話になるが、昭和47年、本校野球部は埼玉県勢を打ち破り、甲子園出場を果たしたが、集まる報道陣は「よくそこのグラウンドで！」と絶句するほどであった。

格技場より手狭な久那土公民館では、バスケットボール部、木工実習室の僅かの空間を利用しての卓球部、実習室としては見限られた廃屋に何とか畳を敷き詰めての柔道部、小学生が帰宅後の第一グラウンドは、ラグビー部・バレー部・陸上部であった。こんな具合に部活動の環境条件は劣悪そのものであった。そのためか部活動への関心は希薄で全般に活力に欠けていた。しかし劣悪な環境にもめげず、ひたすら励んでいる幾つかの生徒集団の光景はけなげであり、私たちに深い感動を与えた。「この姿がある以上、火種を点せば必ず大きく燃え広がるのではないか！」、私達新任若手教員4名は、こんな思いを熱く語り、胸に秘め合った。

力強い取り組みのスタートであった。野球部部のW先生、自ら新設のラグビー部のS先生、バスケットボール部のO先生等の活躍は淀んでいた校内に新風を吹きこんだ。

私は登山部の顧問を任されたものの、たった一人の部員では活動もままならず、5月末に迫っている高校総合体育大会どころではなかった。一人でも欲しかった。そんなとき、新米教師の私に好奇心いっぱい、一目でツッパリ連とわかる6名の2年生グループと次第に心を通わせるようになっていた。私の熱心な入部勧誘で不承不承応じてくれた。早速のわか仕込みの特訓も中途半端のまま大会に出場した。結果は惨憺であった。しかし見え隠れする彼らのパワーを引き出し、大きく育てようと思いついて来年を期した。

新たな挑戦は、時に紆余曲折、時に挫折の繰り返しであった。そんなとき我が家での寝食を共にしながらの話し合いを幾たびか重ね、山との絆、互いの絆の一層の強化を図った。そして山と自然が織りなす絶景に驚きと不思議さを体験・実感し、より多くの感動を積む中で、活動意欲に大きな変化が見えるに至った。

あのツッパリグループが頑張りグループに見事に変身していったのである。果たせるかな翌年の高校総体の成果は3位入賞の栄誉に輝いた。彼らは私を困らしてしばし感涙にむせんだ。この成果は後輩達に大きく受け継がれ、以後十数回に及ぶ連続優勝、4度にわたる全国制覇の峡南高校登山部黄金時代を築き上げた。熱き情熱・子らへの愛情ほとばしる教師時代のひとこまである。

三珠中学校生徒の三珠保育所訪問

12月16日(火)三珠中学校3学年生徒が、三珠保育所を訪問し、園児と楽しいひとときを過ごしました。これは、家庭科の「幼児とふれ合おう」という学習であり、園児との交流をとおして、命の尊さを感じたり、幼い子への関わり方や思いやる心を学んだりするためのものです。中学生は、事前に作っておいた玉入れや輪投げ・ロケット等の手作りおもちゃを持参し、小



仲良く手遊び



手作りおもちゃで

グループごとに自由に遊ばせてあげました。また、わかりやすい言葉で遊び方を教えたり、園児が喜ぶような優しい言葉かけをしたりしていました。歓声をあげて夢中になって遊んでいる園児の姿を見て、中学生の表情も穏やかになり、幼い子どもたちの世話をしながら、園児とふれ合うことの心地よさを感じているようでした。相手のために何かをしてあげる喜び、園児の純粋な心に触れることのできた喜びなど、多くのことを学んだ体験学習となりました。

下山立正保育園 みそ作り体験



10月の枝豆大作戦

2月10日(火)下山立正保育園では、8名の年長児とその保護者が「親子みそ作り」に挑戦しました。食教育の一環として、今年で2年目を迎える行事です。昨年10月に、年中児・年長児の親子で「えだまめ収穫体験」を行いました。その時収穫した大豆を使って、甲州みそ作りに取り組みました。講師には、地元の農業生産法人の遠藤好一さんをお招きしました。大豆を煮た後、米麴・麦麴・塩をしっかりと混ぜ合わせ、最後に大きな容器に入れます。モンブランみたいになった大豆と混ぜ合わせる作業は、粘土遊びをしているようでとても楽しそうでした。飯田千翔(ゆきと)さんは「わくわくして待ち遠しい。早く食べたい」と、明るい笑顔で話してくれました。このみそを使用し、おいしいみそ汁が飲めるようになるのは1年後です。その頃は、ピカピカの小学1年生として、それぞれの小学校でがんばっていることでしょうね。



麴と塩とを混ぜ合わせ

市川高校野球部 市川三郷町4保育所との交流

2月20日(金)、市川町民体育館において、市川高校野球部3年生と市川三郷町の4保育所の年長児(市川保育所・富士見保育所・山保保育所・市川南保育所)との交流会が行われました。歴史のある交流会で、平成4年から続けられ23年目を迎えました。今回は、3年生の野球部員11名と保育園年長児30名との交流です。保育所の先生方は、「園児に、野球をとおして体を動かすことの楽しさを体感させ、高校生と仲良く触れ合うことで、社会性を身につけてもらいたい」という願いをもちています。野球部員は、その願いに応えるべく、園児にバッティングやキャッチボールなど、野球の楽しさを存分に味わわせてくれました。園児は最初、緊張気味でしたが、時間の経過と共に、表情がにこやかな笑顔に変わり、歓声が大きな体育館に響き渡るようになりました。後半は、一人ずつバッティング練習の成果を披露しました。大きな拍手をもらい、得意満面の笑顔と自信に満ちた表情に変身していました。



みんなの前でバッティング



お別れの握手

・ご愛読ありがとうございました・

地域教育情報誌「かけはし」をご愛読いただき、心より御礼申し上げます。これからもご愛顧いただけますようお願いいたします。 m(_)_m